

The seal of Kyoto University is a circular emblem. It features a central tree with a dense canopy of leaves. Below the tree is a stylized building or gate. The text 'UNIVERSITY OF KYOTO' is written in an arc at the top, and 'JAPAN' is at the bottom. The year '1897' is also visible. The seal is rendered in a light gray, semi-transparent style.

京都大学における クラウドファンディングへの対応

August 30, 2017

京都大学 学術研究支援室

白井 哲哉

A handwritten signature in a cursive, flowing style, likely belonging to the speaker, Tetsuya Shirai. The signature is written in a light gray color and is positioned at the bottom right of the slide.

1. クラウドファンディング支援の背景
2. クラウドファンディング支援
3. クラウドファンディング支援の課題

1. クラウドファンディング支援の背景

KURA

現状

京都大学では、研究者が利用できる大学独自のクラウドファンディングのプラットフォームは持っていない

一方

クラウドファンディングを、研究活動に利用する
(or 利用をしたい) 京都大学の研究者は存在

1. クラウドファンディング支援の背景

KURA

外部のクラウドファンディングを利用した**トラブル**

例1) 獲得した資金を**大学に入れなければいけない**ことを、研究者が知らなかった

例2) 獲得した資金を大学に入れる時、**間接経費がかかる**ことを、研究者が知らなかった

例3) **リターンの設定**が不適切であった

例4) クラウドファンディングの**資金の受け入れ**が初めてのため、大学事務の担当者が戸惑った

1. クラウドファンディング支援の背景

KURA

クラウドファンディングを用いる**研究者のメリット**

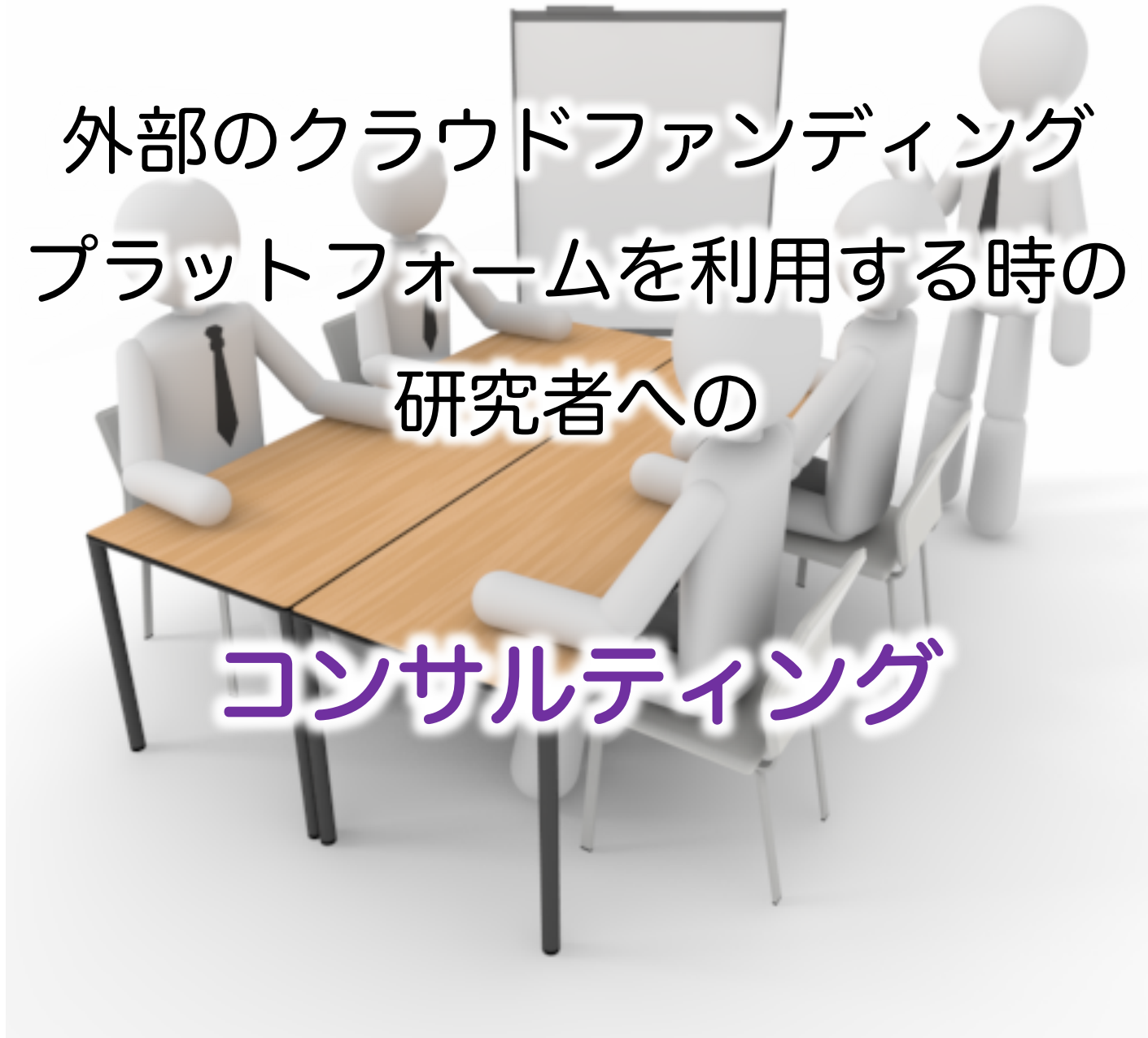
- ① 自分の**好きなタイミング**で資金獲得に挑戦できる
- ② 従来、評価されづらかった**萌芽的な研究や新しい学際研究**の研究資金が獲得できる可能性がある
- ③ 資金獲得と同時に研究内容を**広く社会に伝えられる**
- ④ 研究に関する**支援者の声を直接聞くことができる**

2. クラウドファンディング支援

KURA

外部のクラウドファンディング
プラットフォームを利用する時の
研究者への

コンサルティング



1. 研究者へのCFの紹介

「多くの研究者はクラウドファンディングを知らない」
「研究者は初めて聞く資金獲得方法に不安」
「挑戦の段取りやリターンの設定等がわからない」

支援効果

研究資金獲得
のチャンス増

2. 広報支援

「支援者が集まらないとお金も集まらない」
「支援者（非専門家）に伝わる研究紹介が必要」

支援効果

チャレンジ
達成率のUP

3. 事務処理の対応

(寄付受入のスキームの整理と大学担当者への周知)

支援効果

研究者と事務
との負荷軽減

「研究者は自分の口座に入ったお金をそのまま使う場合も」
「突然事務にCFによる寄付の話しがと混乱する」
「リターンの設定・間接経費に注意が必要」

想定される大学（URA）での対応

3. 事務処理（研究資金活用）の対応

1. 研究者への
CFの紹介

2. 広報支援

CF を実施する外部の
“プラットフォーム”

2. クラウドファンディング支援



研究者用、事務職員用の指南書を作成

2. クラウドファンディング支援

KURA

Contents

- A. クラウドファンディング (CF) とは？
- B. CF プロジェクト「準備編」
- C. CF プロジェクト「挑戦編」
- D. CF プロジェクト「達成編」

KURA

2. クラウドファンディング支援

KURA

● B. CFプロジェクト「準備編」

1. CFに挑戦するプロジェクトの内容整理
2. 大学事務との事前共有

KURA

2. クラウドファンディング支援

KURA

● C. CFプロジェクト「挑戦編」

1. 挑戦するプロジェクトの連絡
2. 挑戦するプロジェクトの詳細設定
3. プロジェクト紹介素材の準備
4. CFプロジェクト挑戦開始

KURA

2. クラウドファンディング支援

KURA

◦ D. CFプロジェクト「達成編」

1. 目標金額達成の連絡
2. 寄附金の受け入れ手続き
3. 研究の実施と成果の発信

KURA

外部のプラットフォームを利用するデメリット

KURA

1. 外部業者に**マージン**を支払う必要がある
2. 事務**手続きの非効率** ※資金受入・ルールの明確化
3. 学内**事務職員の周知が困難**
4. 研究者の**チャレンジ可否の不明瞭** ※テーマ・役職
5. 学内**研究者への周知が非効率** ※不安解消・意識改革
6. 学内にCFの**ノウハウが蓄積しない**
7. CFPの**利用方針をフレキシブル**に変えられない
→広報（ブランド戦略）に使えない

外部のプラットフォームを利用するメリット

KURA

1. 外部業者が業務を負担

■ サイトの運営 ■ 研究者へのCFの紹介 ■ 研究者からの問い合わせ対応 ■ 研究者へのチャレンジ計画アドバイス ■ 研究者への広報媒体作成支援&アドバイス ■ チャレンジの広報支援&アドバイス ■ 資金の受入・管理 ■ 大学への寄付手続き ■ リターンの作成・発送 ■ 研究成果の発信サポート

→ 恒常的な体制と資産（人・資金）の確保が不要

2. 外部業者が持つWebサイトを利用

→ 支援者が訪れるWebサイトの構築が不要

3. 外部業者が持つ情報発信メディアを利用できる

4. チャレンジ失敗となった時のリスク回避

■ チャレンジ失敗となると資金は入らない、研究も進まない

→ チャレンジに要した労力の多くは外部業者

5. 研究成果発信のリスク回避（public trust）